

愛知大学
理事長・学長
佐藤元彦



「知を愛する」大学として
国際化、地域貢献に
これからも寄与したい

2

012年4月、本学積年の願いであった新名古屋キャンパスが、名古屋駅そばの「ささしまライブ24地区」に誕生します。市が掲げる「国際歓迎・交流拠点」に「ざわいのある複合型まちづくりの推進」という同地区のコンセプトは、本学の設立趣旨である「国際的教養と視野をもった人材の育成」「地域社会への貢献」と明確に一致します。特に国際という点では、現代中国学部と国際コミュニケーション学部が核になるでしょう。

そもそも本学のルーツは1901年に上海で設立された東亜同文書院(後に大学)にあります。日中提携のための人材育成を目的に、全国で選抜された学生が県費で学ぶ学校でした。同校

は終戦により閉校しますが、翌46年、その志や学籍簿、成績簿を受け継いで創立されたのが本学なのです。「知を愛する」という意味で名付けられた「愛知」という校名は、実は県名と直接関係がありません。

毎年1学年全員を4カ月間、中国に派遣する現代中国学部の設置をはじめ、『中日大辞典』の編纂や、日中学長会議への参加など、中国との交流が盛んなのはこうした歴史によるものです。ただし、これからは中国だけではなく東アジア全般との関係も課題となります。設立時の学籍簿をひもとくと、台湾、朝鮮半島からの学生が多く学んでいたことがわかります。現在も、本学の留学生数は県内2番手。そうした実績を、ベ

に東アジアを中心とした国際性豊かな大学にしていきたいと考えます。

また、設立当初、本学が文部省に提出した将来計画のなかに「農学部、水産学部の設置」という一節があることにも注目しています。建学の精神が経営上重要な位置を占める私学として、農学、生物あるいは環境系など、理系分野をカバーすることも、検討していくつもりです。

地域社会で活躍する人材を輩出すること。これも大学における地域貢献の一つのあり方でしょう。金融機関をはじめ、地元の名の知れた企業に多くの学生が就職していることも本学の特徴です。うれしいのは、企業の方から「愛大卒というだけで安心できる」と評価されること。それは、自由な校風なのか、壁にぶつかったとしても、教員や友人に支えられながら、最終的には自分で解決する。そうした雰囲気や学内に満ちているからだと思えます。また、新司法試験における高い実績について「団体戦による勝利」という人もいます。学生個人の頑張りはもちろん、仲間、そして先生方が一体となったからこそその成果だということです。「自分だけ合格しても素直には喜べない」。そんなコメントの多さにも本学のムードが表れていると思えます。

【理事長・学長プロフィール】さとう もとひこ●1958年生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。広島大学大学院社会科学研究所博士課程単位取得退学。特殊法人日本学術振興会特別研究員、愛知大学経済学部教授、同大学経済学部長・理事などを経て、2008年8月より現職。

【大学プロフィール】1946年創立。法学部(法学科)、経済学部(経済学科)、経営学部(経営学科、会計ファイナンス学科)、現代中国学部(現代中国学科)、国際コミュニケーション学部(言語コミュニケーション学科、比較文化学科)、文学部(人文社会学科)、地域政策学部(地域政策学科)、短期大学部(ライフデザイン総合学科)